

世界から核兵器をなくそう！ヒバクシャの訴えを広げよう！

# ヒバクシャ国際署名連絡会宮城

2020年  
10月27日発行  
ニュース No.15  
＜発行責任者＞  
ヒバクシャ国際署名連絡会宮城

最終集約数発表  
全国 12,612,749筆



10月6日、中央の連絡会より、上記の最終集約数が発表されました。期待通り、1200万筆を超える結果となり、全国の熱い想いが感じられる数字です。今後のことについても連絡がありましたので、以下報告します。

## 【国連総会への提出について】

新型コロナウイルスの影響で、国連総会に参加できないことから、先日被団協より国連軍縮部宛にメールで提出しました。提出に対して、サントス・マラベール第一委員会議長と中満泉上級代表からビデオメッセージをいただくようお願いしています。

## 【今後について（署名の延長）】

ヒバクシャ国際署名は核兵器禁止条約発効が間近に迫り、ヒバクシャ国際署名のニーズが国内外でかつてないほど高まっていることから、署名活動を2020年末まで活動を継続し、1月初めに集約、1月中に最終提出を行うことを決定しました。

- ・新たな最終集約日、いつどのような形で提出するのかは現在調整中です。
- ・9月までで活動を終了した組織が再開するかどうかは各組織や地域連絡会の判断に委ねます。
- ・条約が10月に50か国批准を達成した場合、発効が90日後の1月中になること。延長されている2020年NPT再検討会議も1月に開催される予定であることから、2016年からの活動の集大成を1月に定めることにしました。

宮城では、連絡会としての活動は9月30日で終了しましたが、各団体や各地で署名を続行することはもちろんしていただいてもいいですし、お手元に署名された用紙をまだお持ちでしたら、受け付けますので、所属の団体か原爆被害者の会宛てに送ってください。

中央連絡会は、今後新しい国際署名を検討していくこととなります。新しい署名ができ次第、連絡会もそれに合わせて活動を再開していくために、事務局体制を維持していきます。

# 9月30日 ゴール集会を行いました！

連絡会の一区切りとして、9月30日、市民の広場いこいのゾーンでゴール集会を行いました。その日は、福島原発事故生業訴訟の画期的な判決が出された日で、労組関係の方々は裁判の方に回ったため参加者は少なかったのですが、秋晴れの中、30名で行いました。



最初に、木村緋紗子会長が「宮城の皆さんはよく頑張ってください。また一人被爆者が亡くなり力の抜ける思いだが、支えてくださる皆さんがいるので、これからも核兵器廃絶のために頑張っていく。」とあいさつをしました。

続いて、事務局から、3年間の取り組み報告を行いました。また、うれしいニュースとして、IPB（国際平和ビューロー）から、ヒバクシャ国際署名の運動に対して、平和や軍縮などの分野で活躍した個人・団体に贈る「2020年ショーン・マクブライド平和賞」をいただいたことも報告しました。

いよいよ、宮城の署名数発表。9月18日までの集約で、140,207筆になったことを報告しました。今後も事務局体制を続け、新しい署名ができればまた集まりましょうと提起し、最後に全員で記念撮影をしました。

その後、平和ビル前に移動して、街頭宣伝を行いました。署名へのご協力御礼と、署名到達数の報告をしました。用意した250枚のチラシはあっという間にはけて、1時間予定していた宣伝も30分で終了となりました。



了となりました。今後は、日本政府が核兵器禁止条約に参加するよう求めていくことも大事であることをアピールしました。

ゴール集会の様子は、東北放送がニュースで流し、次の日、河北新報で報道されました。

3年半のご協力ありがとうございました！  
宮城 140,207筆